

♪江森 登 アコーディオン教室「第46回演奏発表会」ぶらり訪問記♪



日 時 2010年5月22日(土)16:00 開演
会 場 科学技術館ホール
交 通 都営地下鉄半蔵門線「九段下」駅
又は、東西線「竹橋」駅より徒歩7分
ゲスト演奏 群馬アコーディオンセンター
(合奏) 指揮 田村鉄雄
ゲスト出演 江森ファミリークインテット
アコーディオン 江森登 / 土生英彦 /
平賀康子
ギター 江森孝之 / ピアノ 宮沢由美
ベース 田辺和弘 / ドラム 江森裕史
会員券 1000円

江森登アコーディオン教室の発表会はいつか聴きに行きたいと思いつつもなかなかチャンスが無く今回ようやく実現しました。

プログラムの表紙に「今年の春は寒暖の差が激しく、少しからだの調子を壊してしまいましたが、でもおかげさまで46回目の発表会を無事迎えることができました…」との書き出しであいさつが載っています。まずは46年間途切れることなく教室の発表会を続けてこられたことにおめでとうございますと申し上げたいです。

生徒数も多く、欠場者が2名いましたがそれでも35名の生徒が独奏し、ゲスト演奏が二つ、さらに江森先生の独奏とアンコールと続きます。途中15分の休憩が入るので終わったのが19:45分になっていました。会場で偶然、お会いした毎年聴きに来ているという友人の話では以前はもっと終わりが遅かったのですが、始まりを少し早めて今日のようになったとのことでした。

長時間になることが予め分かっている方たちなのでしょうか休憩時間におにぎりなど出して飲食している方が見受けられました。また、椅子が少々変わっていて、座席の

背もたれの後ろに折りたたみ式テーブルが備え付けてあり、広げるとテーブルになるのでプログラムや持ち物を置くのには都合がよいのですが、広げて止まるときに“パチン”としっかり音がでるのです。皆さん気にしている様子はありませんでしたが、演奏中はテーブルの操作を控えるようお願いしても良かったのではと思いました。

さて演奏の方に話を戻すと、皆さん暗譜で演奏するので、どこまで暗譜が続くのかと思いきやなんと、まだ1年目で初めての発表会という方、北海道から2ヶ月に1度習いに来ている方、84歳の方等々生徒全員が暗譜での演奏でした。これには少々驚きでした。暗譜できたところからが仕上げへの始まりと聞いた事がありますが、本当に実感しました。

ゲスト演奏では、群馬アコーディオンセンターより指揮者(田村鉄雄氏)を含めて15名が出演し、仙田優氏(群馬アコーディオンセンター会長)編曲の「真珠とりのタンゴ」を演奏、発表会に花を添えていました。

休憩後の最初に演奏された「江森ファミリークインテット」ギター、ピアノ、ベース、ドラム&アコーディオンの5重奏「自由に踊ろう:江森孝之編曲/他」は、皆さんプロなので、ピアニストの腕というのか手首、あるいは指先に至るまでのしなやかさに見ほれてしまいました。

江森先生の演奏は、ハチャトリアンの仮面舞踏会より『ワルツ』でした。いつものことですが姿勢のよいのに感心します。

江森登氏は司会者のインタビューに来年は危ないといいつつも、46年続いたのだから来年も続けたいとおっしゃっていました。

長時間でしたが飽きることも無くボリュームのある素敵な演奏会でした。(記:乙津)

